

# 「生態工房(武蔵野市)」など5団体 サントリー地域文化賞

サントリー文化財団は三十日、地域文化の発展に貢献した活動を顕彰する第四十四回サントリー地域文化賞を認定NPO法人「生態工房」(東京都武蔵野市)など五団体に贈ると発表した。賞金は各二百万円。

生態工房は、池の水を抜いて池底を干す「かいぼり」を支援し、外来種の駆除や水辺の生態系を再生する活動を続けている。都内を中心とする三十カ所でかいぼりを手がけた。「自然との共生」というテーマを築しみながら共に実践することで人々に広めてきた功績は大きい」と評価された。

立川市内で記者会見した生態工房の片岡友美理事長は「これまでの活動が評価され、うれしい。活動範囲を広げ、自然再生に関与していきたいと語った。

他の受賞団体は次の通り。

北海道函館市「函館市民映画館シネマアリス」▽福島県会津若松市「はるなか」▽富山県高岡市「弥栄節保存会」▽「丸亀市猪熊弦一郎現代美術館」(香川県丸亀市)



サントリー関係者と並んで記者会見する生態工房の片岡友美理事長(左)は30日、東京都立川市で

## 「かいぼり支援、評価されうれしい」

### 井の頭池 水質劇的改善

八月上旬、東京都練馬区都立光が丘公園にある動物の保全区域(二・四〇〇)の池で、アメリカザリガニの駆除作業が行われた。炎天下で二時間、認定NPO法人「生態工房」のスタッフ四人が胴長姿で池に入り、わなにかかったザリガニをおけに集めた。この日の成果は二百三十三匹。「多い時期の半分。気温が高いとじっとしていて、わなに入ってくれない」と平岩来海さん(三三)は苦笑した。

生態工房は一九九八年に発足。同公園を管理する都公園協会の委託で、保全区域の施設運営と環境管理を担う。外来種の駆除のほか、スッポンやドジョウなど外来種の個体数のモニタリングも欠かさない。



外来種のアメリザリガニを捕獲する平岩来海さん(左)を生態工房のスタッフ(右)が立川市の都立光が丘公園で

来生物のブラックバスを一掃した。さらに二回のかいぼりで他の外来種も根絶。「残ったのがアメリカザリガニ。繁殖力が強く難敵です」と事務局長の佐藤方博さん(四七)は言う。

その後も各地のかいぼりでノウハウを蓄積し、花開いたのが二〇一七年度にかいぼりを三回実施した都立井の頭恩賜公園の井の頭

池(三鷹市)だった。地域ボランティアの「井の頭かいぼり隊」を育て、一緒に汗をかいた。よごんだ池の水質は劇的に改善し、絶滅危惧種のツツイトモなど水草や藻類が復活した。来園者から池を称賛する声が相次ぎ、地域を巻き込んだ取り組みが水辺の生態系回復の王道であることを示した。

「かいぼりが池の水を抜く一過性のイベントとの誤った認識が広がっているが、かいぼりの後が大事だ」。佐藤さんは、かいぼり後も続く外来種との戦いや外来種の保全、追跡調査など活動継続の必要性を訴えている。(花井勝規)